



『社員を働かせてはいけない』

(ベスト新書)

著者 蛭田敬子

会社を辞めない、辞めさせない。人材ビジネスのプロが説く人事の極意

人材の流動化は加速するばかり。定着しない若手社員たちに頭を抱えている企業は多い。

「どうすれば歯止めがかけられるのだろうか」。そんな、経営者や管理職の悩みに明快に答える書籍が登場し、話題になっている。今年2月に出版された『社員を働かせてはいけない』がそれ。著者は、人材派遣・人材紹介を手がける企業の経営者で、キャリアカウンセラーの蛭田敬子さんだ。

「日本のビジネスパーソン、特に若い人たちは、自分のキャリアを作っていくこと、つまり、実績を積み必要性がわかってい

ません。だから、嫌なことがあると、すぐに辞めてしまいうわけです」と語る蛭田さん。

では、それを止めるために企

業は何をするべきなのだろうか。それは、社員の将来の幸福を考へて成長を助け、精神的な満足を与えることだと言う。

「キーワードは『キャリアアップ』。自分のキャリア形成に役立つ仕事だと思えば、若者は無給でも働きます。働きたいから働いている」と実感させることが肝心。給料を餌に、若者を「働かせて」はいけません。これがタイトルの由来であり、本書の「キモ」です」

蛭田さんは、医療事務からレ

セプトコンピュータのインストラクター、証券会社の営業、人材派遣会社の支店長、そして会社経営者へとステップアップしてきた経歴の持ち主。実績を積みむことの重要性を、誰よりも心得ているわけだ。

「好きなことをしないと成功しない」とか、「やりたいことをやれば金持ちになれる」といった内容の本が多過ぎる。若者に対して無責任だと思いませんか」と、昨今の風潮に警鐘を鳴らす。

「これからは、企業も個人も『見せ方』が大事。自分の実績、キャリアの見せ方が上手い人は、自分を高く売れるので、仕事に困りません。一方、見せ方が上手い企業は、若者から人気があり、儲かってるんです」

「見せ方」の具体的な方法論が詳述された『社員を働かせてはいけない』は、人材を繋ぎ止めたい経営者や管理職はもちろん、老若男女すべてのビジネスパーソンに役立つ一冊と言えるだろう。



著者プロフィール 蛭田敬子 (ひるた・けいこ)

(株)アイカ代表取締役、キャリアカウンセラー、事務員やコンピュータのインストラクターを経て、大手証券会社の営業職に、入社9カ月目でトップになった実績を買われ、人材派遣会社に転職。3年目に赤字だった神戸支店を立て直し、その後、独立し現在に至る。著書に「望みどおりの仕事をつかむ人の共通点」(PHP)などがある。

●(株)アイカHP <http://www.aika.co.jp/>